

ろう通訳士が必要だと 思われる通訳事例

(コミュニティ通訳・意思疎通支援事業領域)

ろう通訳者の資格化「ろう通訳士」に
関する勉強会

江原こう平

本日の内容

1. はじめに
2. 意思疎通支援事業とは
3. 対象者から見た必要性
4. 通訳場面から見た必要性
5. おわりに

2

1. はじめに

■手話通訳者の業務

- ①人間を相手にしている業務
業務の主体は対象者（利用者）
業務の主人公は手話通訳者
- ②コミュニケーションを通じた業務
- ③対象者（利用者）の成長・発達、生きる
力を支える（潜在的能力の顕在化）

3

2. 意思疎通支援事業とは

■手話通訳関係事業

- ①養成事業（手話講習会など）
- ②認定事業（登録試験・統一試験）
- ③派遣事業（登録手話通訳者とコーディネート
担当）
- ④設置事業（設置通訳・コーディネート・相談）
- ⑤研修事業（新任者向け・現任者向け）
- ⑥その他（事業理解・利用促進）

2. 意思疎通支援事業とは

■ 手話通訳派遣事業の領域

(日常生活・社会生活場面)

- ①医療場面 (病院など)
- ②司法場面 (警察署・裁判所・弁護士相談など)
- ③社会福祉サービスの相談・手続き・利用場面
- ④労働場面 (仕事に関することなど)
- ⑤住居場面 (都営、住宅供給公社、アパート、マンション、戸建て)

5

2. 意思疎通支援事業とは

■ 手話通訳派遣事業の領域

(日常生活・社会生活場面)

- ⑥子育て・教育場面 (育児・保育・子どもの教育など)
- ⑦文化教養場面 (講演・講座・資格取得など)
- ⑧生活場面 (家庭・親族・自治会・地域・冠婚葬祭など)
- ⑨その他生活場面 (金融・保険・税金・年金・その他)

6

3. 対象者から見た必要性

①言語・コミュニケーション、障害別

ろう者、難聴者、中途失聴者、盲ろう者、ろう重複障害者、脳性麻痺、上肢などの障害・欠損、外国人ろう者

②ライフサイクル別

乳幼児期、学童・思春期 (ろう児)
青年期・壮年期
高齢期 (ろう高齢者)

7

3. 対象者から見た必要性

③アイデンティティ、背景別

生育歴 (独特な手話?)
学歴 (未就学ろう者)
コミュニケーション手段
生活背景
社会性 (聴者に関わりが薄いろう者)
通訳に対する意識

8

4. 通訳場面から見た必要性

■ 手話通訳者の専門性の発揮と難しさ

- ① 独特な手話？ をするろう者の通訳をする場面
- ② ろう者の立場（成育歴・暮らし・心理）を理解し、支える場面
- ③ 情報提供・意思決定支援が必要なろう者を支援する場面
- ④ 聴者に囲まれる空間・心理をサポート（特に立場の上下関係が明らかな場面）

9

4. 通訳場面から見た必要性

- 医療場面（病院など）
 - ・ 未就学ろう者など
 - ・ ろう高齢者など
 - ・ メンタルヘルスなどの疾患
- 司法場面（警察署・裁判所・弁護士相談など）
 - ・ 未就学ろう者、ろう重複障害者など

10

4. 通訳場面から見た必要性

- 社会福祉サービスの相談・手続き・利用場面
 - ・ 意思決定支援が必要なろう者
- 労働場面（仕事に関することなど）
 - ・ 就労トラブルの場面など
- 住居場面（アパート、マンション、戸建て）
 - ・ 近隣とのトラブルなど

11

4. 通訳場面から見た必要性

- 子育て・教育場面（育児・保育・子どもの教育など）
 - ・ ろう児
 - ・ ろう学校
- 生活場面（家庭・親族・自治会・地域・冠婚葬祭など）
 - ・ 家族会議、家族とのトラブル

12

4. 通訳場面から見た必要性

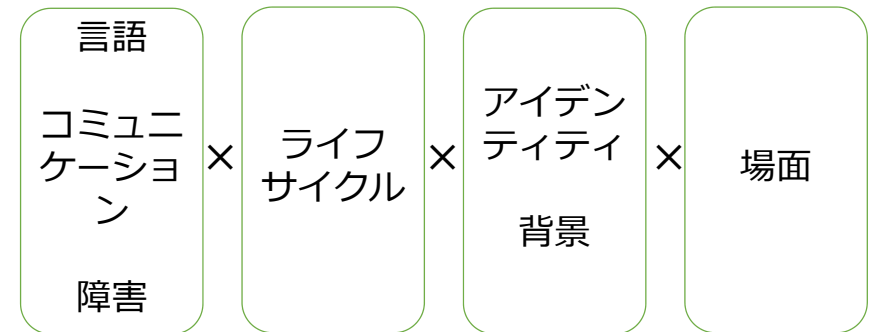
- その他
文書翻訳など

13

5. おわりに

■現状

- ①ろう通訳士が必要だと思われる場面



14

5. おわりに

■現状

- ②手話通訳者の通訳だけでは限界を感じる場面もある
- ③聴覚障害者情報提供施設などにいるろう相談員と協働する場面がある

15

5. おわりに

■まとめ

- ①手話通訳者（聴者）は多数派側の立場で生きている
- ②手話通訳者（聴者）はろう者ではない。ろう者にはなれない
- ③手話通訳者（聴者）は手話が第2言語であることが多い

16

5. おわりに

■まとめ

- ④手話通訳者（聴者）はろうコミュニティへの関わり方が異なる
- ⑤手話通訳者(聴者) とろう通訳の違い（役割・影響）の研究・分析
- ⑥どのように事業化していくのか
- ⑦相互に専門性の向上と協働